



みんなのスポーツ



令和4年12月1日発行 (毎月1日発行) 第44巻第12号 (通巻489号)

特集

ステップアップ総合型クラブ ⑦

総合型クラブの 新しいかたち

2022

12

No.489

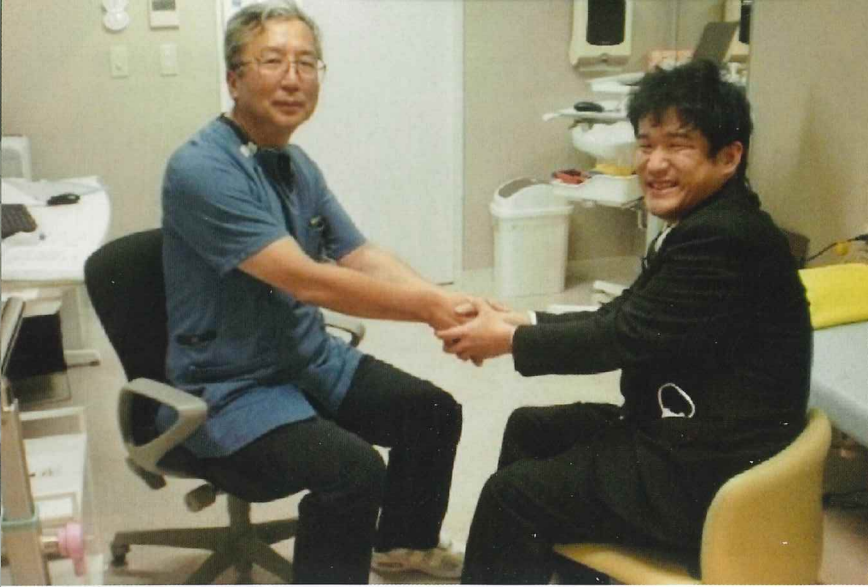
編集協力 都道府県スポーツ推進委員協議会



Sport in Life

障がいのあるなしに関わらず、 誰でも楽しめる会を創りたかった！

スポーツ推進委員2期目にして、諸先輩方から「教え方が上手い！」と言わしめた池田さん。お得意のポッチャについて尋ねると、子どものように瞳をキラキラさせて、ときに激しく、そして雄弁に答えてくださいました。今回は、先天性脳性麻痺と闘いながら、スポーツ推進委員として活躍の池田さんをご紹介します。



池田さんが尊敬してやまない
松山ドクターと池田さん

北海道石狩郡 当別町スポーツ推進委員 池田友洋さん(29歳)

いけだ・ともひろ / 1993年、北海道生まれ。先天性脳性麻痺により両脚に障がいがある。特別支援学校卒業後、本格的にポッチャに取り組み、就労継続支援b型作業所で仕事をしながら令和元年、スポーツ推進委員として委嘱を受ける。北海道ポッチャ協会公認審判員



当別町スポーツ推進委員協議会会長
北海道スポーツ推進委員協議会副理事長
(博士(薬学))
浜上尚也さん



当別町スポーツ推進委員
新井和也さん

思い通りにはならない それがポッチャの魅力

編集部 池田さんは、先天性脳性麻痺による障がいを持っているそうですが、どのような障がいか具体的に教えていただけますか？

池田さん 腕や手は自由に動きませんが、目や耳も全く普通ですが、脚のアキレス腱が固まりやすい病気なので、かかどが浮きやすく、転びやすいので物を持って歩くのは難しいです。以前は全く歩けなかったのですが、松山ドクターをはじめ、リハビリの先生方のお陰で歩けるようになりました。

編集部 ポッチャが得意と伺いました。ポッチャとの出会いや魅力を教えてくださいませんか？

池田さん 特別支援学校でいろいろなスポーツを経験した中の一つがポッチャでした。でもそのときは「こういうスポーツもあるんだ。面白いな」と思っただけで、本格的に始めたのは20歳位。最初は試合運びや、技術の磨き方がわからず苦労しましたが、慣れてくると面白さがわかるようになり、「こ

のエンドは攻めずに抑えておけ」といったアドバイスを仲間がくれたり、その駆け引きや戦略性の奥深さが自分でもわかるようになる」と「これがポッチャの世界なのか」とどんなハマっていきました。とはいっても、どれだけ戦略を練って考えても、その通りにはいきません(笑)。それもポッチャの魅力の一つですが、実力だけでなく、運も味方につけないと勝てません(笑)。

編集部 ご謙遜されていますが、北海道ポッチャ選手権大会(北海道ポッチャ協会)ベスト4、ドリムポッチャ札幌(クラブ主催の大会)ペア戦2位、団体1位、個人3位という戦績はお見事です。

池田さん 来年2月にペア戦の大会を控えているので、技術面を磨いているところですが、上には上がいるもので…(笑)、勝ちにこだわるよりは楽しみたいと思っています。

「アダプテッドスポーツを 楽しもうの会」を発案

編集部 どのような経緯でスポー



マイク片手にボッチャの指導を行う池田さん

ツ推進委員になられたのですか？
池田さん ボッチャの大会やイベントなどでスポーツ推進委員さん
 と知り合いになっていたので、興味
 がありましたし、やってみたい
 と思っていました。
 令和元年の冬に障がい者のスポ
 ーツイベントに参加したとき、野
 口和之元会長（北海道スポーツ推
 進委員協議会）から「池田君はポ
 ッチャ教えるのが上手い。その力
 をスポーツ推進委員に活かしてみ
 ませんか？」とお誘いいただき、
 ビックリしましたが「じゃ、やつ
 てみます」と即答しました。
 ちょうど、僕が発案した「アダ



参加者に説明を行う池田さん

プテッドスポーツを楽しむもうの
 会」（以下、楽しむもうの会）が当
 別町で始まったばかりの頃で、こ
 れを継続させるためにはどうすれ
 ばいいかと考えていた時期でした
 ので、スポーツ推進委員になつて
 盛り上げられたらいいなと思いま
 したし、「渡りに船」といった感
 じでした（笑）。
編集部 楽しむもうの会を発案され
 た経緯を教えてください。
池田さん アダプテッドスポー
 ツは、障がいのある人はもちろん、
 幼児や高齢者なども参加できるよ
 うに工夫されたスポーツ全般を指
 す言葉です。楽しむもうの会を思い



受付ブースでの参加者とのコマ

ついたのは、2016年のリオパ
 ラリンピックで、ボッチャ日本代
 表がTeamBC1・2（クラス）
 で銀メダルを獲得したときです。
 当時、当別町ではあまりボッチャ
 をやっておらず、ボッチャに触れ
 る機会を作りたい！と思って、「ポ
 ッチャなど、アダプテッドスポー
 ツを楽しむ会をやってみたら面
 白いのでは？」と提案したところ、
 ありがたいことに野口元会長（前
 出）に賛同いただき、当別町のス
 ポーツ推進委員協議会の自主事業
 として会を設けることになりました。
 とところが、すぐにコロナにな
 ってしまい、今年7月によくやく
 再開することができました。コロ
 ナ明け初の体験会では、30人とい
 う枠を決めて、ボッチャやフライ
 ングディスク、卓球などを楽しん
 でもらいました。今後は人数も含
 め、どのくらいのパースで開催す
 るかを考えていきます。老若男女、
 障がいのあるなしに関係なく誰で
 も楽しめる会にしたいと思います。
編集部 スポーツ推進委員2期目
 だそうですが、心がけていること
 は何ですか？



写真左から、深仁会リハビリテーション病院の松山ドクター、池田さん、理学療法士の諸岡さん、リハビリ部長の佐藤さんと記念撮影



池田さんが勤務するレストラン「ぺこぺこのはたけ」の同僚と

池田さん 走るのは人より遅いですし、長い時間立っているのも難しいので、フットローヤサポートしていただきながら自分ができること、頑張れることを見つけながら活動しています。

また、高齢者施設や社会福祉協議会からポッチャの講師をよく依頼されるのですが、子どもたちにはあれこれ口うるさく言うのではなく、まずはやってみようという一番だと思えますし、高齢者の方には、「ここを狙うとこうなりますよ」とゲーム性を知ってもらい、理解してもらえようなアドバイスを心掛けています。

障がい者だからこそ何倍も伝わるものがある

編集部 同期のスポーツ推進委員である新井さんから見て、池田さんの仕事ぶりはいかがですか？

新井さん 楽しもうの会では、人数や参加者の顔ぶれを考えて臨機応変に対応されています。以前、職員向けにポッチャのルールを指導してもらったとき、「今日は少し人数が少ないのでエリアを小さく

くしましょうか？」と提案してくれたり、障がい者スポーツを知らない人でも理解できるよう、わかりやすく説明してくれました。事前の打合せもしてないのに、すごい！と思いました。

編集部 浜上会長は、池田さんがスポーツ推進委員であるメリットをどのように捉えていますか？

浜上会長 我々健常者が障がい者を対象とした事業を考えても、想像すること、頭の中で考えることしかできませんが、池田さんは障がい当事者として、ご自身の体験を活かした指導をしていたことができるので、健常者が説明しても伝わりにくいことを池田さんなら何倍もわかりやすく、伝えることができるのでは…とっています。

7月のアダプテッドスポーツの体験会で、医療福祉関係の学生さんと障がい者が和気あいあいと一緒にスポーツを楽しんでいる姿を見て、池田さんの存在が、障がい者や健常者といった垣根を取っ払ってくれたのではないかと思います。スポーツ推進委員が障がい者スポーツを推し進め

るにあたって、不安や疑問点を池田さんに相談できることも大きなメリットですし、池田さんを通じて障がいのある方々との接点を持つことも有り難いです。第二第三の池田さんが仲間に加わってくれることを期待しています。

編集部 池田さんの今後の目標を教えてください。

池田さん 私の病気は体が固まる性質があり、年齢とともにそのスピードが速くなっているので、正直いつまでスポーツ推進委員を続けられるかわかりません。1日も長く続けるためにマッサージやリハビリなどの身体のケアや筋肉をほぐしたり、ストレッチをしてメンテナンスをしています。

アダプテッドスポーツは誰でもできるので、「遊び感覚」で気軽に参加してほしいと思っています。何よりポッチャの人口を増やしたいので、楽しもうの会はもとより、医療機関や教育機関にもどんどん広めていきたいです。そして障がい者スポーツに関わらず、いろいろなことに挑戦していきたいと思っています！